令和７年度　理科　授業改善推進プラン

大田区立入新井第一小学校

１　昨年度の授業改善推進プランの検証

（１）　成果

・動植物の観察の機会が少ないことに対して、時間を確保して行ったことで、生命領域に関する学習に意欲的に取り組むことができている。

・視聴覚資料を有効活用して観察・実験を行ったり、学習の流れを繰り返し指導したりしたことで、学年が上がるにつれて、資料をもとに既習事項や日常生活と関係づけて推測する力が付いてきている。

（２）　課題

【単元内自由進度学習の取組】

・体験活動の工夫（学習環境の構築）

　校舎工事中のために、校庭がなく、動植物に触れる機会が少なく生命領域についての理解度の差が大きい。理科室周りに動植物をおき、日常的に動植物に触れる機会をつくる。

２　大田区学習効果測定の結果分析

（１）　達成率（経年比較）

今年度の正答率が目標値に対し、＋５ポイント以上の場合△、

＋５ポイント未満－５ポイント以上の場合≒、－５ポイント未満の場合▼

	令和７年度結果	令和６年度結果	令和５年度結果
第４学年	△物質・エネルギー ▼生命・地球		
第５学年	▼物質・エネルギー ≒生命・地球	≒物質・エネルギー ▼生命・地球 （第４学年時）	
第６学年	△物質・エネルギー △生命・地球	≒物質・エネルギー ≒生命・地球 （第５学年時）	≒物質・エネルギー ≒生命・地球 （第４学年時）

（２）　分析（観点別）

①　中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「身近なしぜんのかんさつ」「こん虫の育ち方」などの生命・地球領域における知識理解について目標値より正答率が低い。	「太陽と地面のようす」の理解について目標値より正答率が高い。 実験の方法や結果から、考えられることを説明することについて、目標値より正答率が特に低い。	正答率は、目標値を下回っている。 自分の考えを整理して、最後まで丁寧に記述することが苦手な児童がいる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「植物の発芽と成長」「魚のたんじょう」などの生命・地球領域における知識理解について目標値より正答率が低い。	物の体積と温度、物のとけ方の理解について目標値より正答率が高い。 二つのことの関係や実験の改善方法、理由など、考えたことを説明することについて、目標値より正答率が低い。	正答率は、目標値よりやや下回っているが、同程度である。自分の考えを整理して、最後まで丁寧に記述することが苦手な児童がいる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・知識を身に付けさせるために、ドリルパークなどを活用し反復練習を行い、学習の定着を図る。	・実験結果と日常生活と絡めた考察ができるようにしていく。 ・実体験（植物や昆虫などに触れる機会）を多く設けていく。	・単元内自由進度学習で、自分のレベルにあった課題を選択し、自分で考えを整理・まとめていけるようにしていく。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・視聴覚資料や実物を有効活用して観察・実験を行うことで動植物に関する知識の定着を図る。 ・特に生命・地球領域に関しては、様子や変化を視覚化する活動を取り入れることで、理解を深められるようにする。	・「対照実験」や「条件制御」をキーワードとして繰り返し指導し、どのような計画が妥当であるかを話し合わせる時間を設け、立案する力を付けさせる。 ・観察や実験の後にデータを整理する方法を考えさせたり、比較・関係付けの見方・考え方を繰り返し指導したりすることで、考察の際の視点を明確にもてるようにする。	・単元内自由進度学習を通して、問題を自ら設定して解決をする活動を入れて、主体的に学習を進める力を付けさせる。 ・日常生活との関連を教師が話すことで、理科学習の楽しさを伝え、学びに向かう力を伸ばしていく。